



南阿蘇ビジターセンター 阿蘇野草園だより



●愛らしいエナガ(柄長)

いろんな種類の鳥が群れることを「混群」と言いますが、そのリーダー格がこの可愛いエナガです。他の鳥に比べて尾羽が長く、名前の由来は尾羽が水をすくう「ひしゃくの柄」に似ていて、“柄が長い”から来ています。

大きさはスズメと同じですが、とてもスマートな体型で、愛らしい目と顔立ち、「チーチー」「ジュリジュリ」と鳴き声も可愛いので、女性に人気があります。

最近は数が減ってきていますが、阿蘇野草園周辺では一年中見ることができる鳥です。

小さな虫や木の種や芽を主食とし、群れで木々を少しずつ移動するので比較的見つけやすく、また、オスとメスがペアで枝止まりすることも多く、エナガの人気の理由です。



【写真提供】増田 泰夫さん(阿蘇地区パークボランティア)

5月の
自然観察会

実施予定日：5月5日(火・祝)午前10時～
受付場所：南阿蘇ビジターセンター

☎ 南阿蘇ビジターセンター ☎0967-62-0911

人にやさしいまちの実現に向けて

～互いの人権を尊重し、支え合うことから～



◆人権作文「地鳴」第48集について

高森町では、毎年、町内の幼稚園・保育園の園児、並びに小・中・義務教育学校、高森高校の児童生徒による人権作文「地鳴」の作成に取り組んでいます。今年度も第48集が3月に発刊され、駐在嘱託員の方々のご協力のもと、町民の皆様のお手元に届けられ、作品に目を通していただいていることと思います。



発刊された「地鳴」第48集

がもつ発想力と感性の豊かさを感じとることができました。「帰ったらまたお手伝いする」では、お迎えを待つ間の何気ない会話の中で、友達の良さを認め合い、家族への感謝の気持ちを出し合う場の雰囲気がとても温かく感じました。「善い行いとは？」では、普段の生活の中で見せる子どもらしさの中に、先生が感じた疑問を投げかけることで、さらに自分たちの行動を振り返り、深め合う姿が印象に残りました。

また、「小学生、中学生、高校生の部」のどの作品についても、日常生活の中で起こる様々な出来事や人との出会いを、子どもならではの目線と豊かな感性で受け止め、自分なりの言葉で綴っています。子どもたちが、お互いの存在や価値観を認め合い、違いを理解し、相手の立場に立って行動することの大切さを学んでいる様子がしっかり伝わってきます。

子どもに寄り添い、互いの想いを繋げ合う先生方の地道なお取り組みに感謝いたします。

ぜひ、町民の皆様におかれましても、第48集「地鳴」を手にとっていただき、子どもたちの熱い思いと生き生きした姿を感じ取っていただければと思います。

◆「地鳴」に綴られた「命・家族・なかま」

本誌は、4部(保育園・幼稚園、小学生、中学生、高校生)で構成されています。ここでは、「保育園・幼稚園の部」を中心にご紹介します。

まず、表紙や各ページの合間には、園児の絵画が掲載され、楽しそうな活動の様子が描かれています。そして、作品を読み進めると、活動を通して子どもたちが発することばのやり取りが、各園とも目に浮かぶように紹介されています。

最初の「いっしょにあそぼう」では、自由遊びの時間に聞こえてくる様々な言葉のやり取りの中で、友達としての関係が新たに生まれ、その輪が自然に広がっていく様子に、子どもたちの逞しさと成長を感じました。「カメレオンと鬼ごっこ」では、給食の時間の楽しい会話の中に、子どもたち

☎ 教育委員会 地域人権教育指導員
☎ 0967-62-0227